

# 月次県内経済

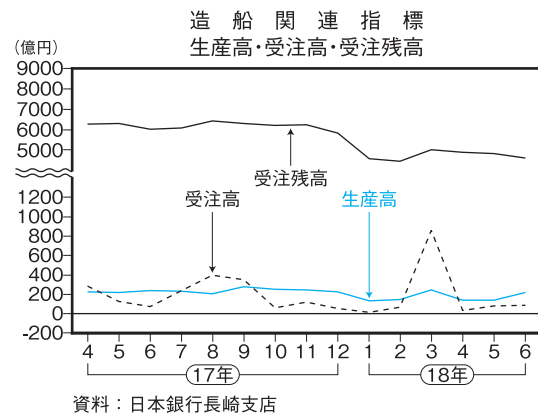
## 概況 横這い圏内ながら持ち直しの動き

<7月>生産面では大手・中堅造船は一部で操業がやや弱含み、重電機械は堅調、電子部品は増勢。需要面では、公共工事請負金額は増勢、新設住宅着工戸数は底堅い。個人消費では大型小売店販売額は弱含み、乗用車（登録車）販売台数は増勢一服。観光面は、記録的な猛暑や台風の影響などから主要観光施設の入場者数は前年割れ。雇用面では有効求人倍率が1.2倍台と人手不足の状況続く。企業倒産件数は引き続き低水準。8月入り後は、大雨や猛暑などの影響が一部にみられ、生産・投資は底堅く、観光面では弱含み。

## 造船 一部では操業やや弱含みも、中小は堅調

**大手・中堅造船**では、一部の船種に新造需要回復の兆しがみられるものの、価格面での競争は引き続き厳しい模様。生産面では、受注残の減少が続くなか一部では操業度がやや弱みで推移。

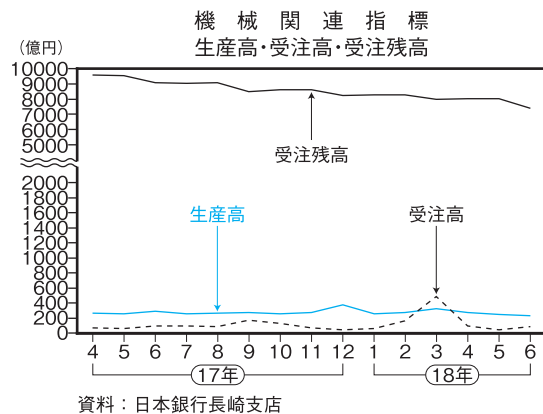
**地場中小造船**では、既往の受注を背景に高めの操業を続けているほか、更新需要もあって貨物船や漁船、官庁船などの受注を確保している。



## 機械 重電機械は概ね生産堅調、電子部品は増加継続

**重電機械**では、原動機（タービン、ボイラー、エネルギー関連等）は国内外ともに受注が弱含みで推移している。電動機は比較的高めの受注残を背景に一定の操業を維持している。列車空調装置は高水準の受注残を維持。

**電子部品**では、海外との競争など厳しい環境ながら、生産増加継続。

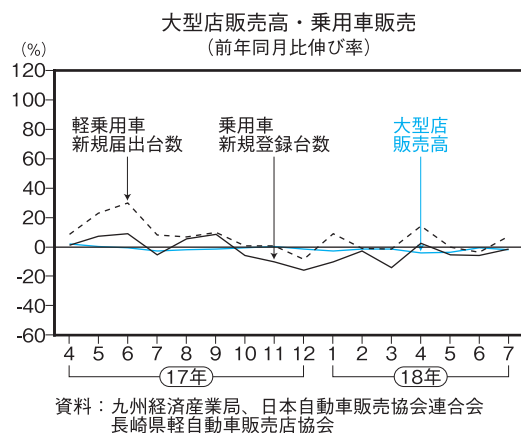


小売商況をみると、7月の県内大型小売店販売額は、前月に続き前年割れ。乗用車販売は登録車が前年割れ、軽乗用車はプラスに転じた。一方、サービス消費面の旅行取扱高はマイナスが拡大。なお、8月度の大型小売店等の売上げについては、記録的な猛暑など天候要因から軟調推移。

7月の**大型小売店販売額**（百貨店・スーパー35店、九州経済産業局調べ）は98億円、前年同月比1.9%減（同一店舗比較）と8カ月連続のマイナス。品目別では、飲食料品が1.4%増となったものの、衣料品は、主力の婦人服等が12.1%減、紳士服・洋品が10.4%減、身の回り品も10.5%減となるなど全体では11.7%減。このうち百貨店では、台風や大雨、猛暑などの天候要因もあり、食料品や雑貨が伸びたものの、衣料品や身の回り品などが振るわなかった。スーパー・大型店等では、インバウンド客増もあってドラッグストアの好調が続き、コンビニも堅調な売り上げが続いている。

乗用車販売では、7月の**新規登録台数**は1,749台、前年同月比1.7%減と3カ月連続のマイナス。うち普通車は3.2%減の785台、小型車が0.4%減の964台。また、軽乗用車は1,757台、7.3%増となり、3カ月振りの増加。軽を含む総販売台数では3,506台、2.6%増となり3カ月振りに前年を上回った。

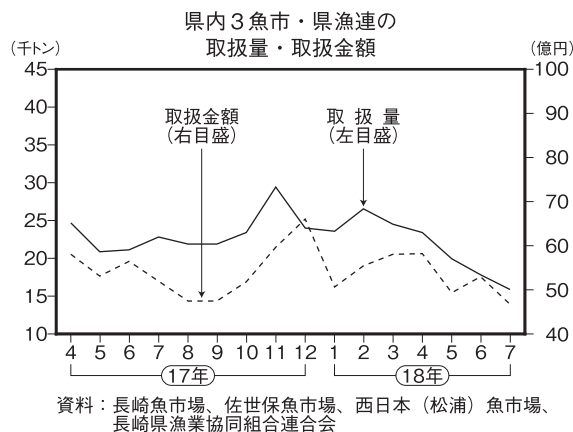
サービス消費面では、7月の県内主要旅行業者の旅行取扱高が、前年同月比24.3%減となり、3カ月連続のマイナス。うち、国内旅行が16.1%減で2カ月振りのマイナス、海外旅行は45.4%減となり4カ月連続のマイナス。



水産 取扱量、金額ともに減少

7月の県内3魚市と県漁連の取扱い状況をみると、**取扱量は1.6万トン**、前年同月比**30.4%減**、**取扱金額も47億円**、同**9.9%減**と、ともに前年割れが続く。

また、魚種別の水揚げ（日本遠洋旋網漁業協同組合調べ）をみると、アジは数量が前年同月比**61.9%減少**し、単価が**51.4%上昇**するも、金額は**42.4%減少**した。一方、サバは数量が同**0.8%の微増**ながら、単価が**8.9%上昇**、金額は**9.8%増加**した。

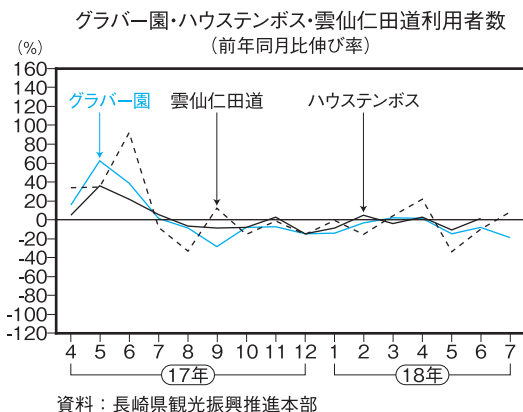


観光 主要施設の入場者数、宿泊客数ともに減少

7月の県内観光をみると、主要観光施設の入場者数、主要宿泊施設の宿泊客数ともに、記録的な猛暑と台風の影響などから前年割れとなった。

**主要観光施設等**（13施設）の入場者は**443千人**、前年同月比**11.5%減少**した。地区別にみると、県南地区はリニューアルオープンした遠藤周作文学館（**27.6%増**）が増加したものの、グラバー園（**18.8%減**）と長崎原爆資料館（**23.6%減**）、長崎歴史文化博物館（**33.8%減**）はそれぞれ減少した。また、島原半島ではリニューアル工事を終えた雲仙岳災害記念館が約**3.3倍**と引き続き好調を維持、雲仙仁田道（**8.3%増**）も避暑もあって増加したものの、島原城（**12.6%減**）は前年割れ。一方、県北地区ではAR技術を活用して恐竜と対決できる新アトラクションがオープンしたハウステンボス、九十九島パールシーリゾート（**4.0%減**）、平戸城（**9.6%減**）いずれも前年を下回った。離島地区では、世界文化遺産へ登録された「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」に関連する堂崎天主堂（**26.8%増**）が2カ月連続増となり、万松院（**2.3%増**）も増加したものの、一支国博物館（**20.9%減**）は前年割れ。

**県内主要宿泊施設**（42社、日本銀行長崎支店調べ）の宿泊客数は、前年同月比**4.9%減少**した。地区別にみると、県南地区が**10.8%減少**し、県北地区も**0.3%の微増**にとどまった。一方、雲仙・小浜の各観光協会の調べによると、雲仙地区の宿泊客数は**11千人**、前年同月比**27.3%減**となり、小浜地区も**9千人**、同**15.4%減少**した。



## 公共工事

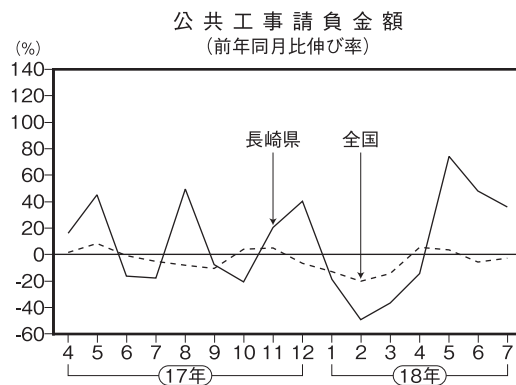
## 請負金額、増勢続く

7月の県内公共工事（西日本建設業保証取扱分）をみると、**請負件数**は444件、前年同月比0.2%増となり2カ月振りの増加、**請負金額**は220億円、同36.0%増と3カ月連続で前年を上回った。

主要発注者別の**請負金額**では、「国」（45億円、2.1倍増）、「県」（49億円、15.2%増）、「市・町」（108億円、37.6%増）いずれも増加した。

また、地区別の**請負金額**をみると、前年を上回ったのは、長崎地区（54億円、39.3%増）、県北地区（41億円、63.7%増）、対馬地区（23億円、2.6倍増）など8地区。一方、諫早地区（20億円、45.2%減）など2地区では前年を下回った。

なお、同月の大型工事は、九州地方整備局発注の「新日見トンネル（下り線）新設工事」（16億円）、対馬市発注の「巖原港国内ターミナルビル新築工事」（12億円）、雲仙・南島原保険組合発注の「公立新小浜病院移転新築工事」など。



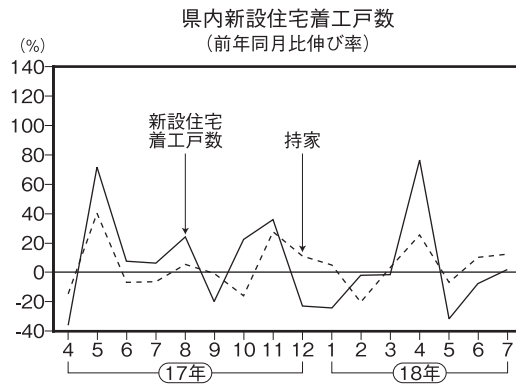
資料：西日本建設業保証

## 住宅建設

## 引き続き堅調

7月の**新設住宅着工戸数**は621戸、前年同月比では1.8%増と、引き続き堅調な推移となっている。利用区分別にみると、貸家（254戸、23.0%減）は前年を下回ったものの、持家（253戸、12.4%増）と分譲（111戸<うちマンション87戸>、2.3倍増）は前年を上回った。

主な市郡別（県建築課調べ）では、前年実績を上回ったのは佐世保市（119戸、58.7%増）、諫早市（66戸、57.1%増）、北松浦郡（32戸、2.7倍増）など7市郡。一方、前年を下回ったのは長崎市（235戸、19.0%減）、大村市（70戸、16.7%減）、西彼杵郡（24戸、47.8%減）など7市郡。



資料：国土交通省

雇用 緩やかな改善傾向続く

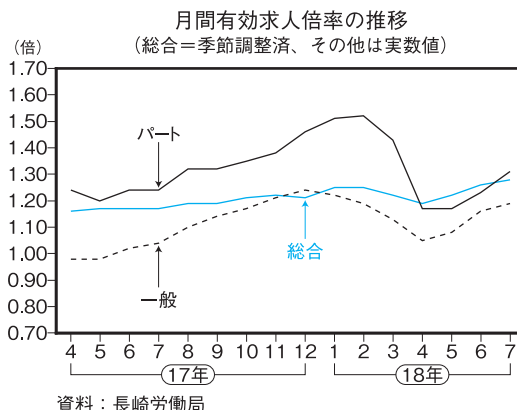
7月の県内の**有効求人倍率**（季節調整済）は前月を0.02ポイント上回る1.28倍となり、過去最高の91年4月と同水準となった。また、全国の有効求人倍率は前月を0.01ポイント上回る1.63倍であった。

**新規求人数**は9.9千人、前年同月比0.8%増となり、3カ月連続の増加となった。形態別では、一般求人が2.1%減と4カ月振りの減少、パート求人は5.4%増と2カ月振りの増加。主な業種別にみると、情報通信業（45.8%増）、サービス業（12.2%増）では2桁増となったほか、卸売・小売業（3.7%増）、建設業（3.3%増）などでも前年を上回ったが、運輸業（6.4%減）、製造業（2.3%減）などでは前年を下回った。一方、**新規求職者数**は5.4千人、前年同月比3.0%減となり10カ月連続の減少。形態別では、一般求職者が6.2%減、パート求職者は3.3%増であった。

また、**有効求人数**は27.7千人、前年同月比2.1%増となり3カ月連続のプラス、一方、**有効求職者数**は22.5千人、6.1%減と7カ月連続で前年を下回った。

**就職件数**は2.2千件となり前年同月比9.5%減。また、**雇用保険受給者実人員**は5.3千人、前年同月比1.8%減となった。

県内の雇用データをみると、緩やかな改善傾向が続いている。



企業倒産 件数・金額ともに最少

8月の県内の**企業倒産件数**（東京商工リサーチ調べ）は、前年同月比3件減の1件と、14年11月以降、46カ月連続の一桁台となり、集計開始以来最少。

また、**負債総額**も0.2億円と、小口ながら倒産件数が3件多かった前年同月に比べ1億円減となるなど、こちらも集計開始以来最少となった。

倒産を業種別にみるとサービス業で、その原因は「販売不振」。

